

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
E141D001	人権教育論(Human Rights in Education)																
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択必修	2	1	教育学部 令和2年度 以降入学生用			氏名 吉野敦, 住岡敏弘, 長谷川祐介, 黒川勲, 甘利弘樹, 森下覚, 藤田敦 E-mail ayoshino@oita-u.ac.jp 内線 7539											
授業の概要	本授業において受講者は、人権をめぐる歴史および現代社会に存在する多様な人権課題について学び、教師として人権教育を担うための視点や知識を獲得することを目指す。																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	現代社会に存在する多様な人権課題について説明できる。																
目標2	教師として具体的に人権教育を実施するための計画をたてることができる。																
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	オリエンテーション 教育と人権																
2	人権と人権教育の歴史																
3	地域における人権教育																
4	人権の思想的基礎づけ - 人格の本質																
5	生と死に関しての人権問題 自律尊重原則																
6	人種差別と人権保障 米国を事例として																
7	アファーマティブアクションは逆差別か？																
8	日本における多文化共生と教育 日本における外国人の困難																
9	日本における多文化共生と教育 多文化共生に関わる日本の学校教育の可能性																
10	性の多様性 性の多様性と人権問題																
11	性の多様性 性の多様性を尊重する学校づくり																
12	偏見と差別 偏見や差別の心理																
13	偏見と差別 偏見や差別の再デザイン																
14	人権の授業 人権について考える学習活動と教材																
15	人権の授業 命の大切さを考える授業																
ラーニング	A:知識の定着・確認	人権問題に関するワーク, グループディスカッション, ディベート, 模擬授業等を実施する。					工夫	その他の									
ニテ	B:意見の表現・交換																
ンイ	C:応用志向																
グ	D:知識の活用・創造																
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	各回の授業テーマに関する事例について, 文献や記事等を調べる(20h)。															
	事後学修	各授業において指示される課題等に取り組む(25h)。															
教科書	教科書は指定しない。必要な教材や資料は授業中に配布する。																
参考書	参考書は授業中に紹介する。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	各授業テーマに関するレポート	50%															
	授業中の課題への取り組み	50%															
注意事項																	
備考																	
リンク	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の 実務 経験	高等学校地理歴史科非常勤講師・大分県人権尊重社会づくり推進審議会委員・大分市人権同和教育推進連絡協議会委員(甘利弘樹)
実務経験を いかした教 育内容	中等教育レベルの人権史教育及び大分県内における人権課題の解説